



## 横浜地本青年部 第17回定期委員会開催

9月23日、かながわ労働プラザにて横浜地本青年部第17回定期委員会が開催され、委員、傍聴、来賓40名が参加し委員会は成功に終わりました。今回参加していただいた全員が「来て良かったと感じてもらえる」「何かを持ち帰ってもらえる」定期委員会を目的としたため、質疑応答の時間を「組織強化・拡大について」「業務問題について」「その他自由発言」と分けて座談会方式で開催をしました。

組織強化・拡大では、なぜ東労組に残っているのか原点に立ち返って議論をつくりました。委員からは、やめる理由はない、会社や施策にしっかり向き合う、それが東労組、残っているメリットが強いなど力強い意見が出た一方、組合の重要性が低下(理解していない)している、組合以前に人としての在り方を考え直すべき、再加入の取り組みは慎重にいくべき、残っている人の事も考えてほしいなど実際に分会で運動をしていく中で感じている厳しい意見も発言として挙げられました。

業務問題については、営業、工務、運車それぞれの視点から問題提起を行い議論をつくりました。変革2027を発端とした効率化に伴う施策が様々打ち出されています。本当にお客さまが求めていることなのか(お客さまに不便を強いている)、そもそも効率化の意味が違う、ドライバーレスやワンマン化などについては車掌業務の重要性を根本的に考えたほうが良い、会社の人材育成はどうなるのか、資格所有者の問題、車両修繕の問題(優等列車が全て大宮で大丈夫なのか)、「安全・サービス」について会社と組合の考え方に開きがあるので一致させるべきなどと言った発言が挙げられました。業務問題は安全に直結する重要な問題なので、今後も引き続き現場第一線で奮闘する組合員の意見を基に問題解決に向けて運動をつくりだしていきます。

その他自由発言では、自然災害発生時の安全問題について発言がありました。確認列車を担当した乗務員からは、確認の一番列車を担当したが設備関係の社員が乗っておらず安全という言葉がずさんなものになっている。報道と駅の案内が違い、出区点検を台風の中で行うこと自体順番が違う。停電区域に残された仕業検査に関する問題。AIでは異常時に対応しきれない(人だからできること)などが発言されました。

最後に、一人ひとりがちゃんと意見を持ち行動をしていくことを確認して委員会は終了しました。横浜地本青年部としても、今後も青年部員から意見を受け、組合員のための東労組運動を継続して行っていきます。労働組合として、東労組がなければいけない存在まで高め、鉄道の安全と安心して働ける環境や雇用を全員で守り抜きましょう！



### 2019年度横浜地本青年部常任委員会体制

青年部長	岡本洸太	32歳	相模原運輸区	事務長	森田隼士	29歳	鎌倉車両センター
副部長	小澤和哉	32歳	横浜運輸区	常任委員	江村亜登夢	28歳	熱海運輸区
副部長	宮本晃幸	29歳	鎌倉車両センター	1年間よろしくお願いたします！！			

# 青年部員の声から東労組をつくりだしていこう！